

江差の農業

2019.11.5 水堀コミュニティセンター

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
1	町の取り組み	「成果のあった施策」を今後どうしていくのか。	今後、継続するのか終了するのか検討する。 皆さんからも意見をいただきたい。
2	将来に向けての課題	農業機械購入費用助成は、全般的にもっと拡大してもらいたい。 必要としている農家には一通り渡ったが、必要な機械はまだある。継続してほしい。 農業共済掛金助成事業・暗渠排水整備についても営農の基盤となるものであり、継続してほしい。	農業共済掛金助成事業については農業者全体の経営に寄与していると考えているが、農業機械購入費用助成については今後検討が必要である。 漁業も同様の施策があるため、バランスを考えながら検討する。
3	町の取り組み	農業機械購入費用助成は、補助率1/2かつ50万円が上限であるが、足りないと感じている。 大きな機械の購入に対応した制度にしてほしい。	
4	町の取り組み	農地流動化促進補助をもっと拡大してほしい。 今のうちに促進させないと、5年10年後に離農する人が続けて出たら、担い手も一度に受けきれない。 実際他町からも入ってきていて（入作）、このままだと町内の農業者がいなくなってしまう。 金額も買い手10,000円／反、出し手1,000円／反では足りない。	農地流動化を促進するための補助であるが、基本的に農地は個人の財産であるため、高額な補助をすることに問題はある。 また、新規就農者には1万5千円／反と手厚くしている。 この制度を知っている方はいますか？⇒1/3程挙手 では、この制度があることで農地を買い手と思った方はいますか？⇒挙手なし （参加者） 個人の土地の売買に高額な補助をするのはどうかといった視点で言えば、理解できる。
5	町の取り組み	（成果があまりなかったアスパラガス伏込栽培事業についてはみなさんどう考えていますかという町長の質問に対し） どこまで町がサポートしてくれるのかが不明だった。先行投資が必要であり、利益があまり出ないイメージだった。	

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
6	将来に向けた課題	アスパラガス伏込栽培について、赤字を出すのではないかと心配がある。手作業だけでなく、機械も必要になる。 かぼちゃの収穫・選別時期に作業が重なり、手をかけられるかという心配がある。 経営的にも黒字が出るのか疑問である。作業の割に利益につながらないイメージがある。 夏場の単価より3倍は高くなければメリットがないのではないかと。	
7	町の取り組み	基盤整備について、施設の老朽化が進んでおり、応急的な修繕をしながらしのいでいる現状からすれば、基盤整備の必要性は理解する。 事業には多額の負担が発生するため、一定程度、町の支援をしてほしい。	周辺の状況も見ながら検討しなければならない。
8	将来に向けての課題	農業を変えなければいけない。高齢化も進んでいる。若い担い手に引き継いでいかなければならない。 (担い手の経営面積の増加にあたり)人手のかかる水稻やかぼちゃなどを続けるより、豆類や小麦など機械化できる作物をつけていかなければいけない。 そのための方策としてスマート農業を推し進め、若い人に農地を守ってもらう必要がある。 農地は転売等をするようなものではない。半公共性があると考えている(他人事ではない)。	どのような方法で江差の農業を守るのか、検討が必要である。 スマート農業の推進についても、どういう支援が必要なのか見当が必要である。
9	将来に向けての課題	スマート農業について、農業用ドローンの取得(免許も)に対する補助をして、若手に取得を促してほしい。	どのような利用を促すのか？ (参加者) 豆類の防除などに使っている。作業の効率化につながり、規模拡大には必要なものだと考えている。

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
10	将来に向けての課題	基盤整備計画は、最後まで計画的に行えるのか。 担い手が土地を確保して経営拡大していくのであれば、作業効率を考えなければいけない。 各農業者個人でも農業を続けるためには、作業効率を求めていかななくてはならない。 機械導入に関しては、グループで共同化利用するのが良いと考える。	基盤整備計画は、5地区に分けており、水堀を第1地区として令和3年度から9年かけて実施する。事業費は現時点で約20億円。用水の全パイプライン化も考えているが、そうなると約5億円の事業費が増える見込みである。 整地や暗渠を7～8割の農業者が希望している。担い手に集約も図っていく。 11/8に水堀地区の説明会を実施する。
11	町の取り組み	基盤整備による大区画化はどこまで恩恵があるのか疑問である。 ICTも見据えた整備なら話は分かるが、現状の農機具を使い続けるならメリットを感じない。	施設の老朽化があるので、その対処を基盤整備で行う必要がある。その整備の中でほ場の大区画化を行い、基盤整備と別にスマート農業の推進を進めていくものである。
12	将来に向けての課題	基盤整備について、越前地区の道道の改修にあたり、用地補償等がほとんどかからず、倉庫の更新ができず規模拡大ができない農業者がいる。 基盤整備でお金を使うのではなく、そういった倉庫の建設費等補助などの支援を希望する。	基盤整備は農業者からのニーズがあつての施策であるが、いずれほ場の整備は必要になるものである。
13	将来に向けての課題	基盤整備による大区画化を進めてもらいたい。 自身も経営規模の拡大に合わせて農業機械も導入しており、現状の100m区間では作業効率が悪い。 スマート農業も当然必要である。資料の写真にある無人田植え機も、今のほ場ではぬかるんで埋まってしまう。しっかりしたほ場にする必要がある。 大区画化で効率のよい農業を行っている姿を担い手に示したい。	
14	将来に向けての課題	町内の農業者は高齢化が進んでいる。 新規就農に力を入れるべき。 機械や土地を後継者に渡す(第三者継承のことと思われる)という方法もあるようだし、何よりも後継者が「食える」農業を示す必要があると思う。過去の失敗もあるが、考えなければいけない。	

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
15	将来に向けての課題	農地の売買は限度があるようだが、賃貸に対する助成があればよいのではないか。 賃料がかからずに借りれば、拡大する意欲もわくのではないか。	
16	将来に向けての課題	空いている倉庫があれば使いたい。 自分も倉庫を建てたが、まだ機械も導入したいのでスペースが足りない。 使っていない機械なども借りてみたい。 相手と話をするのは自分だが、きっかけや情報をもらえるだけでも助かる。 (使っていない機械はきちんと動くのか？壊したらどうするのか？といった声も出た)	情報提供するのも大事かもしれない。
17	将来に向けての課題	江差町は観光も推進しているが、この地域(農村地域)で適切な草刈りがされておらず、景観が悪くなっているところがある。 ただ営農すればよいというものではない。 寂れてきているのにさらに農村のイメージが悪くなってしまう。	
18	将来に向けての課題	夏場には雑草で子供が歩けない、熊がいて気軽に外で遊べないこともある。熊だけでなく鹿の農業被害も懸念されている。猟師が少ないと聞くと、狩猟免許の取得に対する助成なども検討してはどうか。	若い方が免許をとってもらえるようなことを考えていかなければならない。
19	将来に向けての課題	スマート農業をする上で光ケーブルが入っていない地域がある。なんとかならないか。 インターネットを使うにもISDNなのでとても通信速度が遅く、不便である。	
20	将来に向けての課題	光ケーブルの敷設が厳しくても、今後5Gも入ってくるので、それをwi-fiでカバーしていくなどの多面的な検討をして欲しい。	

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
21	将来に向けての課題	江差町は昔から農業に力を入れていない。 米の直播は20年以上やっているが、そういったチャレンジに対する助成がない。 昔は何もない中で自力で何でもやってきた。今は育てなければ育たない。	農業・漁業の一次産業は大切である。その一次産業が最終的に観光につながっている。 何でも助成するわけにはいかないが、メリハリをつけて必要な予算をつけていきたい。
22	町の取り組み	アスパラガスは地域の作物として定着しているが、そろそろ地力も寿命である。(定植してから10年が目安と言われているが、15年以上経過している場所もある) ハウスをそのままにして土だけ入れ替えるのか、別の場所にハウスを建て替えるのか、いずれにしてもお金がかかる。(一年目は収穫できないので一年間の収入に穴が開く) これからどうするのか検討しなければならない。	認識している。
23	将来に向けての課題	松前町では、地元の材料を使って牛舎を建て、町営で牛を繁殖させて販売していくようだ。 その仔牛を安く買えれば、繁殖牛を買わずに新規で畜産を始められるのではないかな。	今後、情報収集に努めたい。